

坂本エリア

大津市北部の坂本は、数百年間にわたり延暦寺や日吉大社への門前町としての役割を担ってきました。比叡山の山頂で延暦寺を創設した僧侶・最澄（767～822 年）は、坂本で生まれました。また坂本には、延暦寺まで続く日本最長のケーブルカーである坂本ケーブルカーの東端の駅もあります。

坂本には、歴史的建造物が多く残っているなど、あらゆる昔ながらの魅力を保っています。このエリアへは電車で簡単にアクセスでき、探索する場合は徒歩が最適です。日吉大社に至る大通り沿いには、小規模な寺院の他、延暦寺で修行を積んだ僧侶たちが隠居する里坊が並んでいます。これらの建物に特徴的なごつごつした石垣は、地元の穴太衆と呼ばれる石工集団によって完成された特別な様式を備えています。京阪線の坂本比叡山口駅の側には、日本最古の茶園と考えられている日吉茶園があり、日本にお茶を持ち込んだ最澄が、そこに茶種を蒔いたとされています。

主要な商店街には古い木造の店が並んでおり、各店舗の軒先には「バツタリ床几」と呼ばれる伝統的な折りたたみ式木製ベンチが置かれています。また、そばなどの地元の名物料理を提供する飲食店も豊富に揃っています。脇道や路地に入っていくと、人目に付かない山道や静かな墓地など、思いがけない場所にたどり着くことがあります。